

国際会長 (IP) Jacob Kristensen (デンマーク)

“TRUST IN THE RIVER OF LIFE”

「命の川を信じよう」

会長 古賀 健一郎
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

アジア太平洋地域会長 (AP) David Lua (シンガポール)

“Make a difference” 「変化をもたらそう」

監事 松島 美一

ブリテン 伊藤 誠彦

東日本区理事 (RD) 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)

担当主事 奥菌 一紀

「変化を楽しもう」

“Let's enjoy 'Changes' ”

湘南・沖縄部部长 (DG) 古田 和彦 (横浜)

「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共にYMCAに仕えよう」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「クラブ創立90周年の恵みの中、YMCAと共に未来を開く」

“Blessing of club 90th anniversary, open the future with YMCA”

<今月の聖句>

古賀 健一郎

ひとりが攻められれば、ふたりでこれに対する。
三つよりの糸は切れにくい。

(コヘレトの言葉4章12節)

今月のひとこと

『90周年記念に想う』

伊藤 誠彦



コロナ禍の収束が見通せない状況下で、クラブの90周年記念式の開催は断念することを1月の役員会で決定した。改めて周年記念とは何かと考えてみた。

一つはこれまで活動を継続できたことを祝して行う内祝いの行事であり、もう一つは内外の関係者各位への感謝の気持ちを伝える外向きの行事である。同時に、クラブの今後の在り方について思いを馳せる良い機会にすることだ。

クラブの伝統とは何か、改めて考えてみる。伝統とは、これまでのクラブ活動を通して、良識ある会員一人ひとりの心の中に育まれた行動規範として顕在化されるものであると考える。会員はワイズの一員になるまで、また、なった後もそれぞれ多様な経験を積んでいる。従って、各会員の価値観、

行動規範は多様である。その多様な価値観、行動規範の集大成から生み出されるものがクラブの伝統となっている。

それぞれの会員が多様な価値観、行動規範を持っている限り、横浜クラブのあるべき姿を議論しても全員一致のあるべき像を描くことは困難である。このことは、幾度となく繰り返されたこれまでの試みが挫折したことが物語っている。

では、このまま是認して良いのであろうか。やはりクラブとして目指すべき大きな方向性は欲しい。それを可能にするのが「例会」と「親睦」であると考え。 「例会」での卓話は自己啓発し、自己点検する絶好の機会になる。「親睦」を深めることは意見や考え方の異なる相手を認め合う上で不可欠の要素である。

改めて2000年以降のブリテンを見直してみた。直近数年とそれまでの最も大きな違いは例会出席者数(メネット含む)の減少である。例会の充実は何にもまして横浜クラブに求められているものではないだろうか。

昨年はコロナ禍で3~5月の例会は中止した。7月以降はZoom併用の例会が開催され多くのゲスト、ビジターにも参加いただいた。これは画期的な出来事だと言える。一方で肝腎の横浜クラブ会員の出席が特定の会員に限られ、デジタルデバインドともいえる現象も見られる。親睦の機会や場も大幅に減少した。

90年誌に加藤利榮ワイズが次のよう書いてくださっている。「横浜クラブよ、今こそ来るべき創立100年に向け…クラブの伸長を図って行かなければならないかについて、クラブの力と知恵を結集し、共に考え、実現しようではありませんか…」

ウイズコロナ、アフターコロナの新常態とも言うべき横浜クラブ運営の大きな方向性を描くべく、多くの方々の智慧もお借りして皆で智慧を出しあっていくべき時期だと考えます。

<2021年1月例会実績 中止>

在籍者	出席者	出席率	B F	
11名	メン 0名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 1名 ゲスト 1名 合計 0名	0% (メーキャップ 名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 現金 年度累計 切手 現金	0g 0円 0g 0円

<2月の行事予定>

EMC/E YES

日	曜	時間	行事内容	場所
11	木	10:00	横浜 Y 会員大会	前半 YouTube 後半 Zoom
11	木	12:30	横浜クラブ第一例会	Zoom
25	土	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

「1月第一例会報告」

1月第一例会は新型コロナウイルス緊急事態宣言発出に伴い、感染拡大防止の観点から開催を自粛し、中止いたしました。

「近況：専門学校について」

奥菌 一紀



私が横浜 YMCA に入職したのは1991年1月でした。そのため今年で31年目を迎えます。30年を振り返りますと、長いようであっという間に思えます。入職時から現在まで専門学校事業に携わりました。語学ビジネス系分野、体育分野、福祉分野、医療分野、留学生を対象とした日本語教育などさまざまな分野の学科を担当いたしました。

専門学校にはあまりなじみのない方もいらっしゃるかと思います。義務教育修了後の高等教育機関の一つであり、大学とは異なり卒業後は即戦力となる職能教育を行う人材養成機関であります。

ご存じかと思いますが、日本の教育システムは、小学校・中学校・高等学校・短大・大学というルートを基本としています。2019年の調べでは、義務教育修了者のうち高等学校への進学率は約98%を超え、高校卒業後の高等教育機関への進学率は82.8%となっています。

全国で見ると、このうち大学への進学率は53.7%、短期大学への進学率は4.4%、専門学校への進学率は23.7%となっています。この30年の間に日本の高卒後の進学率は大きく変わり、大学進学率は24.7%(1989年)→53.7%、専門学校進学率は16.0%(1989年)→23.7%へと増加しています。

進学率だけでなく、人口動態もこの30年間で大きく変化しました。日本の18歳人口は、第二次世界大戦後のベビーブー

ム世代が18歳となった1966年の249万人をピークに減少に転じ、2014年には118万人となりました。それ以降は118万人前後となっていますが、2030年には100万人を割り込むことになるだろうと予測されています。この少子化傾向は高等教育機関全体に直接的な影響を及ぼします。進学率が上昇しても学生総数自体が少なくなっているため、選り好みしなければすべての若者が高等教育機関に入学できる状況となっています。

このような中で、変化する社会環境と社会から求められる人材の高度化、学生の就労に結びつく教育に対する要望の高まりから、高等教育機関のひとつである専門学校での人材養成には期待されることが多くなっています。同時に専門学校では多様な形で職業人の養成を目指した教育が展開されることが求められています。さらに、社会的要請の高い課題に対する教育内容・方法の研究開発、高校生等に対する職業意識を創り出す働きも大学等にはできない役割として、専門学校は進める必要があります。

別の視点としましては、ニートやフリーター等の就職困難者に対する就業支援といった専門学校の職業教育機能を活用した独自の取組が求められているとも感じます。今後は上述の高度な人材の受入れとともに留学生が日本で就職し地域へ定着することができるよう留学生に対する就学・就労支援を行うなど、新たな課題に対する取組についても期待されているところであります。

上述の通り、即戦力人材養成機関としての専門学校に対する期待は高まっています。しかしながら、18歳人口が2030年には18万人減少する状況になります。どう考えましても、全ての高等教育機関が現状通り、生き残る可能性は少ないと思われる。留学生の獲得、社会人の学び直しという新たなマーケット開拓を進める一方、高等教育全体のシステムとしての規模の縮小と、教育の高度化を同時に進めなければならない状況です。その上で、個々の専門学校は生き残りのための改革を進めていくことが必要となります。

大学同様淘汰されないためには、学校の存在価値(YMCAならではの価値)を明確にし、競合優位な独自性を打ち出さなければなりません。その独自性を内部スタッフに徹底して理解してもらい工夫と取組みを行い、学外への発信(社会および受験生に対するメッセージ)力を高めて行かなければならないと感じています。

「横浜訓盲院」と「日本水上学園」からのメッセージ

ブリテン1月号で社会福祉法人「横浜訓盲院」と「日本水上学園」にクリスマスプレゼントとして「アンジュの手作りクッキー」を贈呈したことをお伝えしましたが、両施設からお礼のメッセージをいただきました。その一部をご紹介します。

●横浜訓盲院 施設長 伊藤 紀子様

「この度は、施設の子どもたち・職員へクッキーを一人ずつにいただきありがとうございます。去る18日にクリスマス会を行い、子どもたちにいただいたクッキーを渡しました。子どもたちは大変喜んで美味しくいただき、一度には食べきれないようで少しずつ頂いている子どももいます。

コロナ禍で子どもたちは小学校から高校生まで毎日マスク

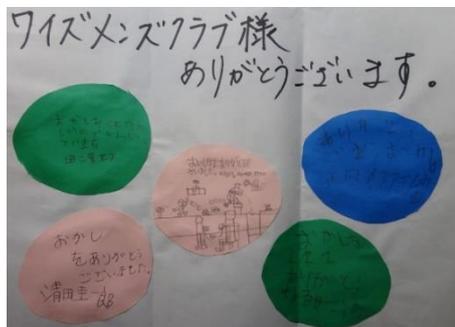
をして登校していますがみな元気です。」

●日本水上学園 園長 佐々木 亮様

「私たち日本水上学園の子どもたち65名(2~18歳)と職員31名は、新型コロナウイルスの感染拡大の予防に努めながら、元気に日々を過ごしております。いつも私たちのことを気にかけてくださり感謝いたします。

さて、この度も当園の子どもたちのために、たくさんのクッキーをお贈りくださりましてありがとうございます。各部屋に配り、子どもたちに食べてもらうようにしました。」

また、両施設の子ども達からもかわいいメッセージを頂き



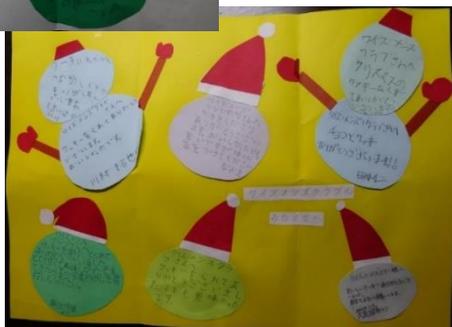
ました。

「おかしをくれておいしいのでかんしゃしています。」

「おいしかったありがとうございます

ました。」

「ワイズメンズクラブさんへクッキーを寄付してくれてありがとうございます。とても甘くて美味しかったです。できましたらまた今度おかしを寄付してください。」



「ワイズメンズクラブの皆さんへクッキーをくださりありがとうございます。おいしかったです。寒いですが体につけてください」・・・などのメッセージが並んでいます。

横浜クラブでは2000年以来、十勝のじゃがいもを毎年寄贈してきましたが、今年度は十勝じゃがいもに換えてクッキーをお贈りしました。尚、両施設からは昨年12月下旬にはお礼状を頂いていましたがご紹介が遅くなりました。(編集子)

「DBC大阪長野クラブからのプレゼント」

DBCの大阪長野クラブから心のこもった手作りのプレゼント(右写真)を頂きました。

大阪長野クラブとのDBC締結は1993年11月、率直に言ってクラブ同士の交流は盛んとは言えませんが毎年クリスマスの時期になりますと手作りのプレゼントを頂いています。また、白井春夫ワイズにはここ数ヶ月横浜クラブの例会にZoomで参加いただいています。70年~90年誌の発行に当たってはいつも祝辞をいただいています。ありがたくあつくお礼申し上げます。



尚、プレゼントは12月例会の会場出席者には手渡し済ですが、古賀会長によりますと、他の方々については中央Yでの開催が可能になり次第お渡しするとのこと。楽しみにしててください。(編集子)



第二例会報告

伊藤 誠彦

日時：1月28日(木) 17:00~18:40

開催方法：Zoomによる開催

出席者：伊藤、大高、古賀、齋藤、古田

1. 行事予定

資料により1月~3月の予定が示され、確認した。

2. 協議・確認事項

1) 横浜クラブ創立90周年記念式開催の是非について

昨年11月24日の緊急役員会にて、延期を決定した記念式を3月頃に開催することの是非について意見交換した。結果、新型コロナの蔓延状況に鑑み記念式は必ずしも開催する必要はなく、延期ではなく開催中止を決定した。背景として、昨年9月~11月の例会で横浜クラブに長期にわたって関わってこられた方々に卓話をお願いし、多くのゲスト・ビジターと共にクラブの歴史についても学ぶことができたことがある。

2) 熊本スピリットクラブとのDBC締結式を何時実施するか

当初記念式の時に予定していたDBC締結式を何時実施するかについて意見交換した。結論として、コロナ禍が収束しない状況で、リモートでDBC締結するなど姑息な手段を選ぶのではなく、一同に会して締結式をとり行える時が来るのを待つべきであるとした。これは、熊本スピリットクラブの希望でもある。

3) 横浜YMCA会員大会への出席と2月例会について

2月11日にYouTubeとZoomを活用し横浜YMCAの会員大会が開催される。会員大会終了後、横浜クラブの例会をZoomにて開催する。

4) 東新部EMCセミナーについて

2月20日(木)にZoomを活用したオンライン形式でEMCセミナーが開催される。「ワイズをより魅力的にするために」とか「なぜ会員増強なのか!」などの発題が用意されており、湘南・沖縄部のエクステンション委員会からの参加の呼び掛けもあるのでできるだけ参加するように。

5) 伊藤ブリテン担当から提言のあった「横浜クラブへの提言」をブリテン紙面上で議論を展開することについて

いろいろな意見が出たが、結論として見送ることにした。

6) 3月例会について

3月例会はZoom開催とする。卓話は佐藤茂美ワイズと千葉裕子ワイズによる「絵本の楽しさ」。

7) 2月号ブリテン編集計画について

例年の十勝じゃがいもに換えて、「アンジュの手作りクッキー」をクリスマスプレゼントとして贈呈したことに対し、横浜訓盲院と日本水上学園からいただいたお礼状の紹介をブリテン2月号に掲載する。

更に、DBC 大阪長野クラブより頂いた手作りの花飾りのプレゼントの紹介を掲載する。

8) 90周年記念誌配布作業について

中央Yの会場使用が可能になるまで延期していた90年誌の配布作業について意見交換した。結論として、90年誌に寄稿いただいた国際会長、東日本区理事をはじめとしてIBC、DBCの皆様へは古賀会長より礼状と共に配布、YMCA職員(含、元職員)への配布は奥園ワイズ、その他の郵送配布は伊藤ワイズが担当することにした。

このためにも90年誌の配布先の確定が必要になることを改めて確認した。

尚、記念誌の誤植の修正は伊藤ワイズが一括して行う。



担当主事 奥園 一紀

■ピンクシャツデー(2月24日)のご案内

ある日、ピンクのポロシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩2人が50枚のピンクシャツを購入、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけました。翌日学校では呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を身に付けて登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなったそうです。

このエピソードはSNS等で世界中に広まり、今では70カ国以上でいじめに反対する活動が行われています。カナダで最初にこの出来事があった日が、2月の最終水曜日でした。それ以降、2月の最終水曜日に私たちもいじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日としています。

社会全体でいじめに「自分ごと」として向き合うこと、そしてこのコロナ禍において、差別や偏見、分断ではなく誰もが安心して暮らせる、多様性を認め合う社会の創造をめざしてキャンペーンを展開します。今年のデザインは、同じピンクでも、これだけの違いがある。「誰もが安心して暮らせる多様性のある社会」を表現したデザインになっています。

https://www.yokohamaymca.org/event/pink_shirt_day_2020/

■第21回日本YMCA大会のご案内

第21回となる今大会はオンラインを用いて実施をいたします。コロナ禍にあり、私たち自身が #はなれていてもつながることを体現しつつ、一人ひとりにある「つながる力」を発揮して、ポジティブネットのある豊かな社会の創造のために、心を合わせ、思いを分かち合う機会としたいと思います。

【第21回日本YMCA大会】

テーマ：「いまこそ、ポジティブネット みつける、つなげる、よくなっていこう！」

大会公式サイト：<https://www.ymcajapan.org/assembly21/>

大会公式Twitterアカウント：@ymcahanatsuna

同盟公式Instagramアカウント：ymca_japan

日程：2021年2月23日(火・祝)

第1部 午後2時～3時30分(90分) YouTubeによるライブ配信形式

第2部 午後5時～6時30分(90分) Web会議システム「Zoom」による双方向形式

対象：全国のYMCAに関わるすべての方

参加費：無料

申し込みについて：個人でお申し込みの場合：Googleフォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/VnSfdQNkFBrnM5CK8>

・締め切り：2021年2月17日(水)

・申し込まれた方には第1部のYouTube配信URLと、第2部のZoom会議室URLをお知らせいたします。

【大会イベント】『YMCAユースチャンネル』開設！

<https://www.youtube.com/watch?v=k5mt152zAU8&list=P LQCvUJ5DPB4FD7ru1BEsZyesXeN6edRrxr&index=2>

公開日：2021年2月5日(金)19時

YMCAに連なる様々なユースによる活動紹介動画をご覧ください。

本大会とつながるしかけを準備しますので、本大会ご参加前にぜひご覧ください。

・お申し込み不要です。

・2月5日の公開後、本大会前々日までいつでもご覧いただけます。

2月例会プログラム

日時：2月11日(木)12:30～13:00

場所：Zoom開催

司会：古賀ワイズ

1. 開会点鐘及び挨拶 古賀会長
2. ワイズの信条 全員
3. 今月の聖句 古賀ワイズ
4. ビジネス・報告 古賀会長
5. Happy Birthday 大高 治
6. 閉会点鐘 古賀会長

例会報告：齋藤ワイズ

3月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
2	木	19:00	Y-Y's協議会	Zoom
6	土		次期会長部役員研修会	Zoom
11	木	18:30	横浜クラブ第一例会	Zoom
25	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA奥園一紀にご連絡下さい。

メール okuzono_kazuyoshi@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080